

## 25 林業界における女性の在り方

長野県林業大学校 2 学年 ○一柳 きくの  
○岩田 紬

### 1. 課題を取り上げた背景

長野県林業大学校の学生は9割が男子、1割が女子です。実際、林業の現場でも男性従事者が多く、\*94%を占めています。男性社会のイメージが強い「林業」という職業の中で、「女性の立場」で活躍するためには何ができるか、長野林大に入学して実習や勉強を通して考えました。

林業界に存在するいろいろな問題（雇用や環境）の中で女性なりの林業を展開することができれば良いのではないかと思います。\*出典：林野庁 「林業・木材産業の働き方をめぐる現状の整理」

### 2. 取り組みの過程

女性の雇用主・従事者の意見を聞くためにインタビューをさせていただきました。質問内容としては Q1, 就職した動機 Q2, 今後の林業に関する要望 Q3, 女性が働くことのメリットです。また、世間の林業と女性に対するイメージを知るために、木曾地域と中京圏域の住民 367 名を対象にアンケート調査を行いました。

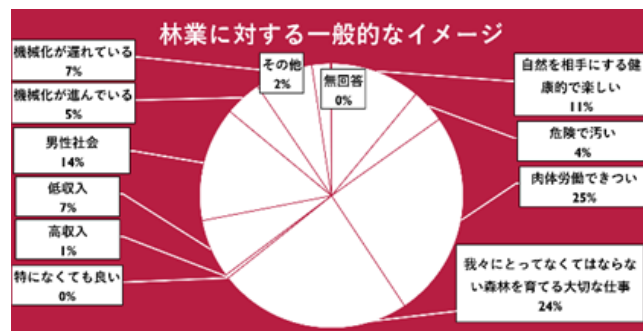


図1 林業に対する一般的なイメージ(アンケート結果)

### 3. 実行結果

生産性のみを重視した会社の経営指針やトイレなどが整備されていない現場、男性の7割程度の賃金といった現実と、「特用林産物の活用・里山での地域交流の活性化など女性の感性を活かした林業を進めていけばいいのでは」といったアンケートでの世間のイメージとでは、ギャップが存在することが判りました。

### 4. 考察

女性の林業への参加を促進するために大切なのは「女性でもできる林業」を展開していくことだと思います。

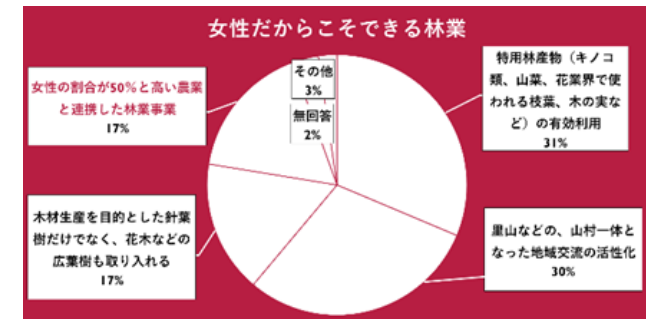


図2 女性だからこそできる林業(アンケート結果)

それは、効率性・生産性だけに拘るのではなく、女性特有の感性を活かした、女性が主体となった新たな林業の展開ではないだろうかと私たちは考えています。